



社団法人
建設コンサルタンツ協会中部支部
副支部長
後藤 隆

巻頭言

社団法人 建設コンサルタンツ協会中部支部は、昭和44年4月に創立され、以来、会員各位の支部活動へのご支援、ご協力により順調に発展し、平成21年4月に創立40周年を迎えました。10月22日には、「支部創立40周年記念式典」を挙行することができ、これも一重に発注関係機関各位をはじめとする皆様方からの格別なご高配やご指導、ご鞭撻によるものと深く感謝申し上げます。

さて、わが国の経済は米国の金融危機に端を発した世界同時不況の影響を受け、景気が急激に後退し、雇用問題も深刻化しています。一方、わが国は少子高齢化が進展し、2030年には2人で1人の高齢者を支えることになると予想されています。このような経済社会状況の下で、少子高齢化に対応した活力のある社会、安全で安心して暮らせる社会、地球環境・生活環境にやさしい社会を形成していくためには、社会資本の充実が不可欠であり、我々建設コンサルタントが果たすべき役割は大きいと考えます。

中部支部では、暮らしと社会資本整備との関係や建設コンサルタントの関わりを市民に理解していただくために、昨年度の「建設コンサルタントフェアinオアシス21」に続き、平成21年10月23日（秋分の日）に鶴舞公園100周年記念事業にあわせて「建設コンサ

ルタントフェアin鶴舞公園」を開催しました。フェアでは、建設コンサルタントの仕事の内容をわかりやすく説明したパネルを展示し、クイズラリー、パソコンを使っての紙飛行機作成、カルチャーセミナーと共催した演奏会などを行い、約900人の市民の方々に参加していただきました。

平成17年4月に品確法が施行されてから、契約方式が多様化し、建設コンサルタント業界ではその対応に追われる状況が続いています。今年度は総合評価落札方式が本格的に導入され、幾つかの課題が見えてきました。このため、中部地方整備局との意見交換会を通常より早めて10月13日に開催し、「プロポーザル方式の適正な運用」、「技術提案書の簡素化」、「表彰数の増加」、「調査基準価格の引き上げ」等をテーマに意見交換を行い、これらの改善に努めてきました。

社会資本整備を確実に実施していくためには、技術の研鑽や新しい技術の習得に加え、広い視野に立った的確な対応が求められています。中部支部では、会員の技術力向上に関する講習会、講演会、研修会等の一層の充実を図っていく所存であります。支部会員の皆様方の更なるご支援、ご協力をお願いします。

中部支部創立40周年記念事業を終えて



記念事業特命委員長 川口幸三

去る平成21年10月22日に挙行致しました中部支部創立40周年記念講演会ならびに記念式典は、行政機関、本部理事及び支部会員等、多数の方々のご臨席を賜り盛会裡且つ滞りなく終えることができました。これもひとえに皆様方のご支援の賜と心より感謝申し上げます。

また、特命委員、企画WG・編集WG及び当日のスタッフの皆様には、大変お忙しい中、ご協力ご支援頂きましたことに重ねて御礼申し上げます。

さて、平成19年度当初の役員会で「支部創立40周年記念式典」の挙行が承認され、「記念事業特命委員会」が発足し、平成19年7月19日に「第1回記念事業特命委員会」を開催いたしました。

小職は、平成19年度に特命委員長を拝命し、平成20年度は、(株)長大の南田高志委員長のもと実施に向けて委員会が活発に活動いたしましたが、南田委員長の異動により、再度委員長を拝命し、記念事業実施までさせて頂きました。

平成19年度の特命委員会では、事業内容の企画(案)の作成を主たる役割とし、平成20年度は、実施に向けた具体的な検討、準備をし、平成21年度は、実施に向けた更に詳細な詰め、準備および実施をいたしました。

今回の創立40周年記念事業の企画コンセプトは、

- 創立40周年は、50周年へのつなぎであり、支部会員を対象とし、創立30周年(平成11年)以降の10年間を対象とする
- 支部管内を中心とした特色あるもの
- 社会貢献活動を意識したもの
- 効率的な予算枠内での実施とし、以下のような内容と致しました。
- 招待来賓；支部管内の主な行政機関を対象
- 事業内容；記念講演会・記念式典および記念誌の発行

事業計画、実施に当たり特命委員会で協議を重ね、記念講演会・記念式典等を担当する「企画WG」、記念誌の編纂、編集等を担当する「編集WG」のスタッフ及び「WGオブザーバー」の総勢18名で行うこととなりました。

記念講演会の講師の選考は、我々の業務に係る講演テーマ[経済、科学、環境]に係る講演者を選考することとなり、ツリークライミングを日本に紹介した第一人者である、ジョン・ギャスライト氏に「環境」をテーマに講演して頂くこととなりました。当日の講演は、大変楽しく、我々の今後のコンサルタントのあり方をも考えさせる有意義なものでした。

記念式典では、以下の表彰を行いました。

- 功労者表彰；平成11年の創立30周年記念式典以降の支部役員・委員として長年に亘る功労に感謝
- 優秀者表彰；社会貢献活動の一環として、「建設コンサルタントフェアin鶴舞公園」を実施し、小学中高学年を対象に未来に向けて、ふくらむ夢・安心なくらし」をテーマに作文と絵画を募集、優秀作品を表彰

この審査では、文や絵の出来栄よりも子供が何を訴えたいのか、子供の視線で見ることに苦労致しました。どの作品もすばらしいため、優秀賞にいたらなかったすべての作品に佳作賞を贈りました。

また、平成11年からの10年間の支部活動をパワーポイントの「この10年を振り返って」で紹介しました。記念誌には中部地域での支部会員の高い技術力の集である「6大事業特集」を編纂し、建設コンサルタントの役割等の存在感を示すことができました。

社会環境は変革しても社会資本整備…人が自然と共生し、安心安全に生きていくためには…我々建設コンサルタントの果たす役割は、多大なものがあります。次なる創立50周年に向け、更なる技術力の向上に努め、社会に貢献できる支部会員でありたいと願うものです。最後に、会員皆様の支部活動へのご協力、ご支援をお願い申し上げます。



講師:中部大学教授・ツリークライミング®ジャパン代表
 ジョン・ギャスライト氏

テーマ「世界で一番住みたい街づくり」
 ～住む人の心と環境改革～

意外性は、住む人の心と環境改革の第一歩という、
 今後の街づくりのヒントとなる内容でした。



プロフィール

1962年6月14日アメリカオレゴン州生まれ、カナダ育ち。
 1985年憧れの三英傑の尾張名古屋に来日。名古屋大学大学院生命農学研究科修了農学博士。

木登りを通じて自然とのふれあいその中で環境にやさしい心を育てる、ツリークライミング® ジャパンを設立。レクリエーションツリークライミングを日本に紹介した第一人者でもある。木を育てながら空間デザインをしていく「木笑園造林プロジェクト」が2000年度グッドデザイン賞を受賞。ツリークライミングプログラムが2007年キッズデザイン賞受賞。2005年国際博覧会でも「グローイングビレッジ」のプロデューサーとして活躍した。

2. 特別企画 創立40周年記念事業

プログラム

第1部

記念講演会

14:00 ~15:30

主催者挨拶 中部支部 副支部長 後藤 隆 氏

記念講演 講師：中部大学教授・ツリークライミング® ジャパン代表
ジョン ギャスライト 氏



テーマ
「世界で一番住みたい街づくり」
～住む人の心と環境改革～



後藤 隆 氏

第2部

記念式典

15:45 ~17:00

開式の言葉 中部支部 副支部長 越智 俊彦 氏

式 辞 中部支部 支部長 田部井 伸夫 氏

来賓挨拶 中部地方整備局 副局長 荒川 光弘 氏
愛知県 建設部長 川西 寛 氏

祝 辞 (社)建設コンサルタンツ協会 会長 廣谷 彰彦 氏

来賓紹介 岐阜県/県土整備部長 金森 吉信 氏
三重県/県土整備部長 北川 貴志 氏
静岡市/土木部長 澤田 幹雄 氏
浜松市/土木部長 松井 充 氏
名古屋市/緑政土木局長 村上 芳樹 氏
(社)建設コンサルタンツ協会 副会長 藤本 貴也 氏

表 彰 優秀者表彰・功労者表彰

報 告 「この10年を振り返って」
中部支部 副支部長 山北 泰典 氏

閉式の言葉 中部支部 副支部長 越智 俊彦 氏



越智 俊彦 氏



田部井 伸夫 氏



荒川 光弘 氏



川西 寛 氏



廣谷 彰彦 氏

報告「この10年を振り返って」



副支部長 山北 泰典氏

演奏会

カルテット「リリカ」弦楽四重奏

ヴァイオリン…大橋 淑江、村越 久美子
 ヴィオラ ……………陸田 佳代子
 チェロ ……………水谷 幸恵

プロフィール

アンサンブル「がジェット」は、ヴァイオリン、フルート、ピアノ、チェロなど、毎回多様なメンバーでお客様と一緒に音楽を楽しむために結成されました。学校、幼稚園や保育園、福祉施設、地域のイベントなどで演奏活動をされています。

今回の弦楽四重奏「リリカ」は、アンサンブル「がジェット」の中から、特にお客様からの希望が多い弦楽器を取り上げ弦楽四重奏として結成され、「がジェット」の活動のほか、レストラン、カフェ、パーティーなどでも演奏活動されています。



2. 特別企画 創立40周年記念事業



表彰式



社団法人 建設コンサルタンツ協会 中部支部 創立30周年から10年間、当協会の委員会活動において、貢献された方々を功勞表彰させて頂きました。

功勞表彰

- 秋山 保 (株)中部テック
- 浅井 俊治 (株)大增コンサルタンツ
- 石井 晃一 中日本建設コンサルタント(株)
- 市橋 忠幸 中央コンサルタンツ(株)
- 岩橋 英雄 セントラルコンサルタント(株)
- 浦田 健一 中日本建設コンサルタント(株)
- 大森 和仁 (株)国際開発コンサルタンツ
- 加藤 典正 中日本建設コンサルタント(株)
- 後藤 隆 大日コンサルタント(株)
- 佐藤 脩 中日本建設コンサルタント(株)
- 田中 信男 大日本コンサルタント(株)
- 田中 美範 いであ(株)
- 中井 治 (株)長大(現いであ(株))
- 西出 善助 (株)大增コンサルタンツ
- 廣瀬 博 (株)大建コンサルタント

(注:50音順、敬称略)



～50周年に向けての展望～

支部長 田部井 伸夫
(玉野総合コンサルタント株式会社)



新しい社会資本整備の提案

低炭素社会や循環型社会など、日本の様々な構造を再構築しなければならない時代。そのためにはこれまでとは全く異なる社会資本整備が今、求められています。過去のトレンドにとらわれず新しい社会づくりにチャレンジできる極めて面白い10年になるかもしれないという大きな期待感を持っています。

副支部長 後藤 隆
(大日コンサルタント株式会社)



コンサルタントの社会貢献活動

少子高齢化などから社会構造の転換を図らねばならない時代。“コンクリートより人への投資”といわれていますが、現在までの豊かな日本を築いてきたといえる社会資本整備の必要性を今また一般の方々へ伝え、事業の見直しや新規事業の制度化に対して、官へ提案していく積極的な姿勢が今後、重要だと考えています。

副支部長 山北 泰典
(バシフィックコンサルタンツ株式会社)



コンサルタントの説明責任と社会貢献活動

政権交代後、公共事業に対する風当たりがさらに強くなっている。それだけに我々建設コンサルタントには、社会資本整備に対するアカウンタビリティ（説明責任）が強く望まれ、その延長線に仕事があると言っても過言ではない。そして、一般の方々にも建設コンサルタントをより周知していただくために、社会貢献活動を通じたPR活動が今後とも重要で、その結果として優秀な人材も集まってくるものと考えます。

副支部長 越智 俊彦
(中日本建設コンサルタント株式会社)



公共事業の必要性

公共事業が長年に蓄積してきた膨大な資産、それらを健全な形で次世代に引き継ぐことはとても重要だと考えています。近年、将来に対して不安を感じるのか、公共事業を目指す学生が減ってきています。今後は、若い人が希望を持てるよう、公共事業の必要性を一般の方々に理解していただくことが重要だと考えています。

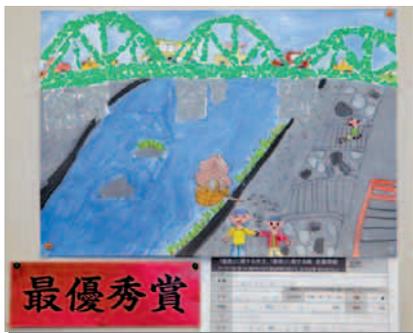
2. 特別企画 創立40周年記念事業

記念事業 「建設」に関する作文・絵の募集作品

当協会では、2009年7月に創立40周年事業の一環として、「街・道・川・橋がおりなす豊かな未来に向けて、ふくらむ夢・安心な暮らし」をテーマに小学生（3～6年生）対象に作文・絵の募集をしました。



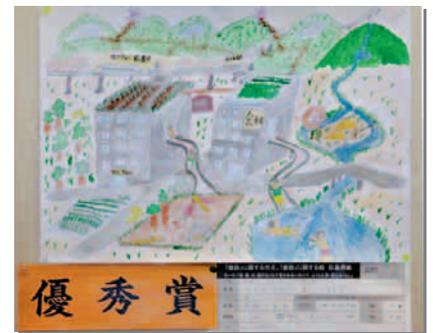
作文・最優秀賞
「理想の世界」



絵画・優秀賞
「未来への架け橋」



絵画・最優秀賞
「私の住むすてきな街」



絵画・優秀賞
「ぼくの住みたい楽しい町！」

表彰式では優秀者表彰および功労者表彰を行いました。

【優秀者表彰】社会貢献活動の一環として、「建設コンサルタントフェアin鶴舞公園」を実施し、小学中高学年を対象に「未来に向けて、ふくらむ夢・安心な暮らし」をテーマに作文と絵画を募集しましたところ、作文9点、絵画23点の応募がありました。

審査の結果、式典で作文4点、絵画7点を最優秀賞、優秀賞およびプレゼン対象として表彰しました。どの作品も素晴らしいため、優秀賞にいらなかったすべての作品に佳作賞を贈りました。

■応募作品入賞者

作文の部	テーマ	氏名(学年)
最優秀賞	理想の世界	島田 美月 (3年生)
優秀賞	わたしの住みたい未来の街	田中 菜摘子 (4年生)
プレゼン大賞	エコな街	川口 拓己 (6年生)
プレゼン大賞	私の住みたい街	小島 菜也 (5年生)

絵画の部	テーマ	氏名(学年)
最優秀賞	私の住むすてきな街	松山 結音 (4年生)
優秀賞	未来への架け橋	渡邊 真菜 (4年生)
優秀賞	ぼくの住みたい楽しい町！	木野 創太 (4年生)
プレゼン大賞	楽しい自然の町	高橋 優佳 (5年生)
プレゼン大賞	懐かしい香りのする賑やかな街	大野 美幸 (5年生)
プレゼン大賞	安心な生活	上野 愛里 (6年生)
プレゼン大賞	空を走る車と雲の上の生活	吉田 桃香 (6年生)

記念事業特命委員会名簿



創設40周年記念誌

記念事業特命委員会は、平成19年度役員会で「支部創立40周年記念式典」の挙行が承認され、「記念事業特命委員会」が発足し、平成19年7月19日に「第1回記念事業特命委員会」を開催いたしました。以降、二年余りに亘り特命委員会および実施にむけた企画WGおよび編集WGを立ち上げ、平成19年度は事業内容の企画（案）作成、平成20年度は実施に向けた具体的な検討、準備を行いました。

平成21年度は、実施に向けた更に詳細な詰め、準備および当日のシナリオ作成検討等の委員会を重ね、去る平成21年10月22日（木）にメルパルク名古屋に於いて『中部支部創立40周年記念講演会・記念式典』を挙行することができました。



平成19年度～平成21年度までに特命委員会、企画WG及び編集WGに係わっていただいた委員は、異動等で交替された方も含めた名簿です。

特命委員

中日本建設コンサルタント(株)	川口 幸三
(株)長大	南田 高志
(株)大建コンサルタント	廣瀬 博
日本工営(株)	西村 正直
いであ(株)	黒川 信敏
(株)大增コンサルタンツ	浅井 俊治
大日本コンサルタント(株)	紺谷 誠
(株)近代設計	長崎 隆之
大日コンサルタント(株)	高木 智
玉野総合コンサルタント(株)	田部井 伸夫
中央コンサルタンツ(株)	小島 裕二
大日コンサルタント(株)	後藤 隆
中央コンサルタンツ(株)	市橋 忠幸
(株)長大	井戸 昭典
中部支部事務局	色部 弘之

編集ワーキング委員

(株)大建コンサルタント	廣瀬 博
大日コンサルタント(株)	高木 智
(株)近代設計	長崎 隆之
日本工営(株)	西村 正直
大日コンサルタント(株)	長屋 俊人
中央コンサルタンツ(株)	橋本 崇
(株)建設技術研究所	風間 喜章
大日コンサルタント(株)	松永 善晴
(株)トーニチコンサルタント	中村 卓生
(株)大增コンサルタンツ	高橋 稔幸

企画ワーキング委員

中日本建設コンサルタント(株)	川口 幸三
(株)長大	南田 高志
(株)大增コンサルタンツ	浅井 俊治
いであ(株)	黒川 信敏
(株)片平エンジニアリング	久保田 裕重
八千代エンジニアリング(株)	増田 茂
中央復建コンサルタンツ(株)	坂本 憲二

ワーキング オブザーバー

大日コンサルタント(株)	後藤 隆
中央コンサルタンツ(株)	市橋 忠幸
(株)長大	井戸 昭典
中部支部事務局	色部 弘之

3. 第19回建設コンサルタント業務技術発表会



駅周辺の狭隘道路を歩車共存道路化するための社会実験を活用した取組み



〈道路・構造土質部門〉

中央コンサルタンツ(株) 東山 泰治

本業務は、駅の移転に伴い交通量が増加する駅周辺の狭隘な交互通行道路において、「ひとにやさしい安心・安全なみちづくり」を目的とした歩車共存道路化を実現するために、社会実験を行うことでその整備効果の検証を行ったものである。

また、社会実験後の道路詳細設計では、実験中のアンケート調査結果等をもとに地域住民の意識・ニーズを把握し、地域の状況に合った最適な道路構造となるように、歩車共存道路化に向けた施策の見直しを行った。

Key Words : 社会実験、歩車共存道路、アンケート調査、交通量調査、速度調査

1 はじめに

岐阜市柳津町で唯一の駅である名鉄竹鼻線柳津駅は、平成20年7月に現在の位置に移転した。

駅の移転に伴い、駅利用の主要ルートとなった市道2号線と市道707号線は、歩道がなく、道路全幅員が約6.5mと狭隘な交互通行道路となっている。(図-1を参照)また、この道路は、幹線道路の抜け道として利用されており、自動車交通量が約2600台/日(約240台/ピーク時)と多いため、駅移転前と比べ歩行者及び自転車利用者数が増加したことで、自動車との接触事故が懸念されるようになった。

- ・自転車…838台/日(約2.5倍増加)
- ・歩行者…677人/日(約6.6倍増加)

これらの交通流の変化に対応し、歩行者や自転車にやさしい安全・安心な交通環境を整備するために、駅の移転前から、学識経験者・地域住民等で構成された協議会により、柳津地区の歩車共存道路化に向けた「みちづくり計画」が策定されてきた。

「みちづくり計画」では、地域住民との合意形成の中で、道路の拡幅を極力避け、一方通行化ではなく交互通行道路のまま現道を活かすという方針となり、フォルトや狭さく等の速度抑制策により安全性の向上を図る計画となった。

本業務は、交互通行道路における速度抑制策等の導入に当たり、社会実験を行い、施策の評価・分析を行ったものである。

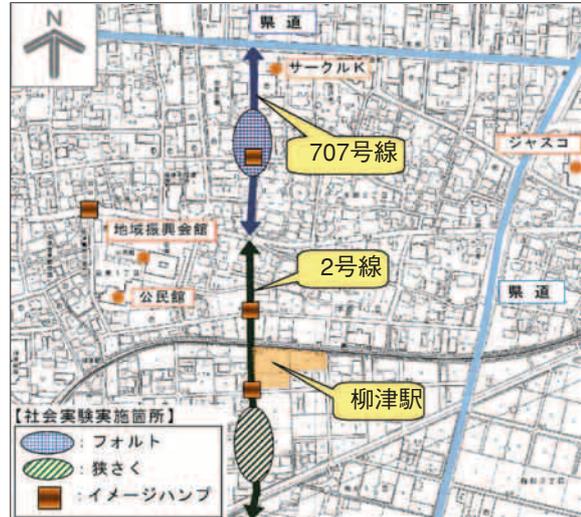


図-1 位置図

2 社会実験の目的

計画案を実施していく上で問題となったのは、本計画が、交互通行道路において歩車共存道路化を図るという点であった。フォルト、狭さくの設置等の物理的な速度抑制策を行うと、車が1台しか通れない箇所が生じるため、すれ違いが発生する道路では、渋滞や事故等の発生が懸念される。したがって、これまでに、このような道路形態での整備事例は少なく、物理的施策の設置間隔や形状等の細部構造の定式化には至っていない。そこで今回、

この歩車共存道路の導入に当たっては、以下に示す2点を目的に社会実験を行い、計画案の評価・分析を行った。

① 計画案の妥当性の検証

- ・フォルトや狭さく等の速度抑制効果や道路交通環境に与える影響の確認
- ・接触事故・交通渋滞等の自動車交通に与える影響の確認
- ・施策導入による通過交通の排除効果の確認

② 道路利用者の実体験に基づく賛否の確認

- ・馴染みの薄い道路構造を実際に体験した際の地域住民や道路利用者の意見の確認

3 社会実験の実施

(1) 実施期間

平成20年10月29日から平成20年11月5日の計8日間にわたり社会実験を実施した。

(2) 実施区間

「みちづくり計画」の整備予定箇所のうち、速度抑制策による悪影響が懸念される以下の2箇所において、社会実験を行った。

- ・家屋が連担しており、乗入れが多い区間
- ・駅が近く、歩行者等の交通量が多い区間

(3) 広報の状況

社会実験の目的の一つである「実体験に基づく賛否の確認」のために、短い期間の中で出来るだけ多くの人に、この馴染みの薄い道路形態を体験してもらう必要があった。そのため、1カ月前から地域住民全戸へ広報チラシを配布するとともに、市役所だけでなく、主として近くの公共施設及び主要箇所にもポスターを設置した。また、実験の1週間前から看板、のぼり旗を製作・設置し、実験実施の周知を行った。なお、これらの広報に使用するロゴや色合いには、統一感を持たせることで地域住民に強い印象を与えるよう配慮した。

(4) 社会実験の方法

社会実験では、フォルト、狭さく、イメージハンプを設置した。以下にその概要を示す。

- ・フォルト (図-3を参照)
 - …交互に道路幅を狭くし、車両に蛇行運転させることにより、速度抑制を図るもの
- ・狭さく (図-4を参照)
 - …所々で幅員を狭くすることにより速度抑制を図るもの

- ・イメージハンプ

…舗装の色を変えて交差点を明示することにより、ドライバーに注意喚起を図るもの

a) フォルト・狭さく部の車道幅員

本路線の現況車道幅員が4.5mであるのに対し、速度抑制対策のフォルト及び狭さく部については、一車線相当の幅員として、3.0mまで縮小した。

b) フォルト・狭さく部の配置計画

フォルトの配置間隔は、渋滞が発生しないように、本路線の平均的な車群3台がフォルト間で滞留しても対向車が通行できるような間隔 (40m以上) とした。(図-2を参照) 実際の配置に当たっては、乗入れ口及び交差点等の現地状況を考慮した。

c) フォルト・狭さく部の直線長

狭さく部の長さは、速度抑制効果を上げるために、出来るだけ長くとするものとし5.0mとしたが、フォルト部の長さは、家屋が連担しており乗入れ等の制約があったことから、図-2に示すように、緊急車両が幅1.0mの障害物を避けて元の位置に戻るために最低限必要な長さである3.0mとした。

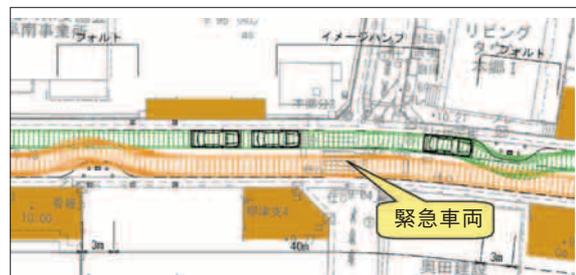


図-2 車両軌跡図 (フォルト部)

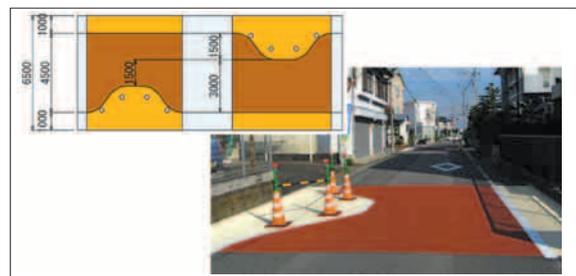
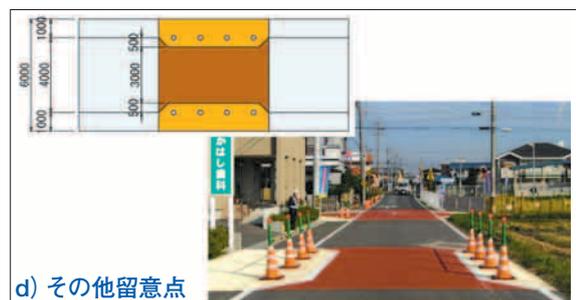


図-3 フォルトの形状



d) その他留意点

図-4 狭さくの形状

3. 第19回建設コンサルタント業務技術発表会

これら実験施設の設置に当たっては、社会実験であることから大掛かりな工事とならないように、カラー舗装については、耐久性が1年程度であるペイント塗料を使用し、フォルト、狭さくにおける障害物については、カラーコーンを設置した。

(5) 社会実験中の調査

本業務では、社会実験の結果を評価・分析するために、以下のような調査を行った。

a) 走行速度調査

フォルト及び狭さく部における、速度低下の割合や走行速度の分布を把握し、整備効果の検証を行うために、速度調査を行った。調査に当たっては、本路線が交互相通行道路であり、対向車両の有無、またはその距離等の状況により走行速度が大きく異なることから、全ての状況での速度データを把握するため、トラフィックカウンターを用いて調査を行った。

b) ナンバープレート調査

本路線は、幹線道路の抜け道となっていることから、施策導入による通過交通の流入抑制効果を検証するため、車両番号を読み取る起終点調査を行った。

c) アンケート調査

アンケート調査においては、柳津地区の全世帯にアンケートを配布するとともに、様々な立場の道路利用者からの意見を確認することを目的に、駅前広場でのヒアリング調査とドライバーズアンケートを実施した。今回の調査結果に対する信頼度は、回答数と母集団のサイズより、周辺住民アンケートと駅前広場でのヒアリングでは95%と一般的なアンケートで求められる精度であった。しかし、ドライバーズアンケートでは、85%程度となったため、これについては、若干の誤差を含むものとして評価を行った。

- ・周辺住民アンケート (回答数 224/1249世帯)
- ・駅前広場でのヒアリング (回答数 歩行者 227人、自転車 135人)
- ・ドライバーズアンケート (回答数 121人)

$$\text{標本サイズ} \geq \frac{\text{母集団サイズ}}{\left[\frac{\text{誤差の最大値}}{\text{信頼度係数}} \right]^2 \times \frac{\text{母集団サイズ}-1}{\text{母比率} \times 1 - \text{母比率}} + 1}$$

(6) 実験状況

社会実験を目視により確認した結果、フォルト、狭さく部ともに歩行者及び自動車は、正しい通行方法をとっていた。しかし、自転車については、フォルト及び狭さくの車道側を通行する場合と民地側の路肩を通行する

場合に分かれた。また、社会実験中は、交通事故、交通渋滞等の大きな問題は発生しなかった。

4 社会実験の結果

社会実験で実施した各種調査の結果を以下に示す。

(1) 走行速度調査結果

フォルト、狭さく部における、実験前と実験後の時間帯別の平均速度の分布を図-5に示す。平均速度は、フォルト部で5.2km/h、狭さく部で2.9km/h減少し、フォルトの方が狭さくよりも速度抑制効果が高いという結果になった。なお、フォルト部では概ね一律に速度の低下が見られたのに対して、狭さく部では交通量が少ない時間帯においては、速度の低下が小さくなった。

また、実験中の通行車両の速度別の割合を図-6に示す。施策の導入により、安全な走行速度と思われる時速30km/h以下の割合が、フォルトで約60%であるのに対して、狭さくでは30%という結果が得られた。

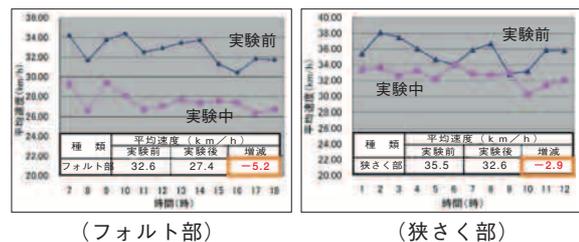


図-5 速度調査結果

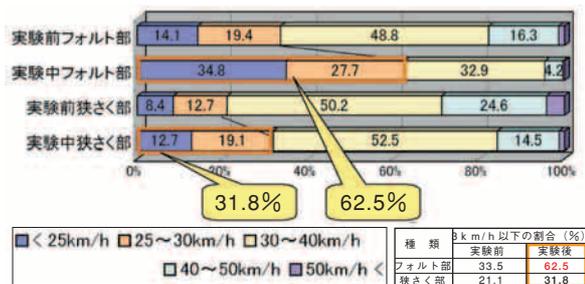


図-6 速度別の割合

(2) アンケート調査結果

アンケート結果は、歩行者、自転車、自動車・バイクの三つに分類し、集計を行った。図-7に示すように、今回の整備によって、安全になったと答えた歩行者と自転車の割合は、ほとんどの施策に対して約6割程度という結果となった。ただし、自転車については、フォルトが安全と答えた人の割合が少なかったが、これは、カラーコーンが邪魔となり、自転車が通りづらかったためと思われる。また、図-8と図-9に示すように、自動車・バイクの約9割以上の人から速度抑制の意識を持ったという意見が得られたとともに、その過半数の運転者が施策の導入について、賛成するという結果となった。

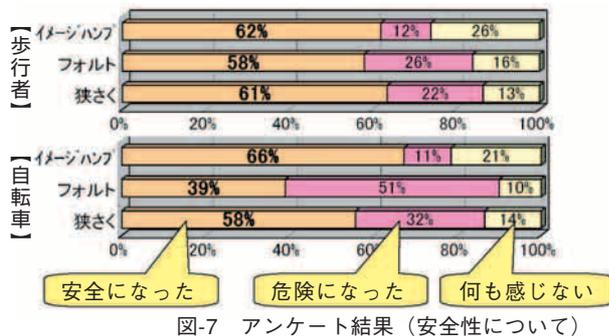


図-7 アンケート結果（安全性について）

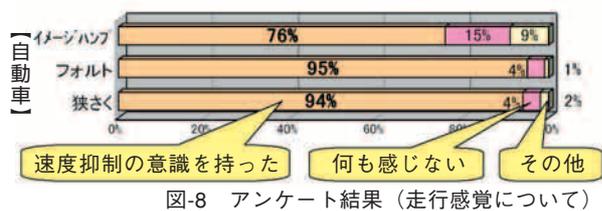


図-8 アンケート結果（走行感覚について）

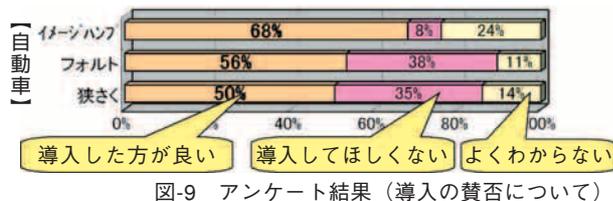


図-9 アンケート結果（導入の賛否について）

5 結論

社会実験の結果を踏まえた、既計画案の評価と改善点を以下に示す。

①フォルトの採用

フォルト、狭さくともに走行速度の低下が見られたが、フォルトの方が安全と考えられる30km/h以下で走行する車両の割合が高かった。これは、フォルトの場合は、対向車両がないときでも蛇行運転しなければならないためであったと考えられる。また、フォルト部では、上下線の優先が明確であり、無理をして対向車よりも先に通過しようとする車両が少なかった。これらを踏まえ、本地区では、フォルトの方が狭さくよりも速度抑制対策として適していると判断し、計画案における整備予定箇所は、全てフォルトを設置する計画に変更した。

②イメージハンプの採用

アンケート調査において、各道路利用者からの評価が全体的に高かったイメージハンプは、「みちづくり計画」に基づき、設置していく方針とする。

③フォルト構造の決定

今回の施策の導入について、フォルト前での自動車の滞留台数は7台程度と短く、誘導員の誘導が必

要となる状況もなかったことから、自動車交通に対する影響は少なかった。よって、本地区におけるフォルトの構造については、社会実験時と同様に、40m間隔で配置し、3mの長さを確保する計画とした。

また、アンケートにおいて、自転車が通行しづらいという意見があったため、図-10に示すように、ポストコーンの配置を一直線上に並べ、通行空間を広げる計画とした。さらに、フォルト部周辺の夜間の視認性を懸念する意見もあったことから、1箇所につき1基ずつ照明灯を設置する計画とした。



図-10 整備イメージ

④通過交通の流入抑制効果は発現せず

社会実験期間が8日間という短い期間であったことから、自動車利用者が新たなルートを開拓するまでには至らなかったことが原因であると考えられる。

⑤道路利用者の計画案に対する賛否の確認

歩行者、自転車利用者はもとより、障害物の設置によって走行性が悪くなる自動車・バイク運転者からも過半数の賛成が得られた。

また、社会実験後に地元説明会を実施したところ、施策の導入に関する最終的な合意形成が得られたことから、本地区では、本格的な歩車共存道路の整備を進めていくことになった。

6 おわりに

我が国においては、本格的な少子高齢化時代が到来、高齢者や障害者をはじめとする全ての人々が、快適かつ安全に生活できるような生活環境の整備が求められている。そのような背景において、今回の整備のように、既存道路空間の中での交通環境の改善が、今後ますます増えてくると思われる。その場合に、道路の通行方法、利用方法を従来のものから変える必要があるため、事前にその妥当性を検証するとともに、地域住民や道路利用者との合意形成を図りながら事業を進めていくことが必要となる。

これからは、社会の様々なニーズに対応するとともに、事業を円滑に進めていくために、社会実験を取り入れることが有効な手段の一つであると考えられる。

3. 第19回建設コンサルタント業務技術発表会



修善寺川における岩盤とっこ（独鈷の湯） 移設設計



〈河川・都市計画部門〉中央コンサルタンツ（株） 磯部 正治／岩田 経／野川 浩生

平成16年10月に発生した台風22号の豪雨により修善寺川が氾濫し、修善寺温泉街の旅館や一般住宅が浸水により大きな被害を受けた。そこで、河床掘削による河川整備を行うこととなったが、河川内に現存する歴史的資源で修善寺温泉のシンボルである“独鈷の湯”

が支障となることから、その保全方法の検討が進められた。その結果、現在の景観や風情を保ち、現況の岩盤をそのまま活用し移設することとなった。

本論文では、“独鈷の湯”の移設位置、移設工法の選定経緯及び移設方法の詳細について述べる。

Key Words : 岩盤移設、鉄筋挿入、修景検討

1 はじめに

平成16年10月に発生した台風22号の豪雨により、静岡県伊豆半島にある修善寺温泉街の旅館や一般住宅は、浸水による大きな被害を受けた。この災害を契機に、静岡県ではこの台風22号と同程度の豪雨（流量250m³/s）が発生しても水害が発生しないよう河床掘削による河川整備を行うことを決めた。

河床掘削を行うにあたって、河川内に現存する歴史的資源で修善寺温泉のシンボルである“独鈷の湯”が支障となることから、「修善寺温泉場まちづくり検討会」及び「修善寺川流域総合検討会議」等にてその保全方法の検討が進められた結果、現在の景観や風情を保ち現況の岩盤をそのまま活用し移設することとなった。本論文では、以上の経緯及び方針に基づき検討を行った“独鈷の湯”の移設工法について紹介する。

2 岩盤移設検討

(1) 事前調査

a) 地質調査

移設対象となる“独鈷の湯”の周囲4箇所及び移設先の河床部1箇所の計5箇所で地質調査を実施した。

ボーリング調査の結果、RQD=76~100%を示し、全体的には「CMクラス」相当と判断された。ただし、露頭岩盤の端部や、独鈷の湯より下流側などの河床堆積物で覆われた所では変質や風化が著しく、RQD=10%以下を示し、「CL~Dクラス」相当と判断された。

また、一軸圧縮の結果、岩盤等級分類基準に示される一般的な硬岩の圧縮強さ（80 MN/m²以上）に比較すると、中硬岩（80~20 MN/m²）と軟岩（20 MN/m²以下）の境から軟岩に該当する強さであり、かなり軟質化していることが確認された（表-1参照）。



写真-1 移設前の状況

時代	地層名	試料（深度）	岩盤区分（クラス）	湿潤単位重量 (KN/立方)	一軸圧縮強さqu (KN/立方)	H=90mまでのRQD (KN/立方)
新第三紀・中新世	（変朽安山岩）湯ヶ島層群	B1 (3.00~3.24m) 上流、左岸寄	CH	22.7	22.014	20~97
		B2 (2.80~3.00m) 上流、右岸寄	CM	22.7	20.657	100
		B3 (2.40~2.60m) 上流、左岸寄	CH	22.3	20.534	76~100~12
		B4 (1.55~1.75m) 上流、左岸寄	CL	22.0	11.685	0~10~0

表-1 岩盤の一軸圧縮強さ一覧表

b) 岩盤調査

“独鈷の湯”の岩盤を切り出して移動させる際に影響を及ぼすと考えられる岩心部に内在する亀裂の状況について調査を実施した。調査方法として、衝撃弾性波の反射を利用し岩盤内の微細な亀裂を検知することができる非破壊試験法であるオーリスシステム (NETIS登録KT990158-A) を使用した。

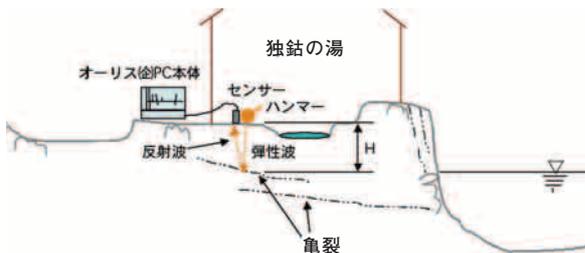


図-1 測定概念図 (反射法)

調査の結果、露頭した部分は本来岩質のよい部分であり、表面付近の岩自体は比較的硬いと判断できたが、深部での開口亀裂も多く予想された。また、亀裂の入っている方向は水平ではなく、傾斜を持っており、表面に現れている板状節理と同じ方向であることが予想された。

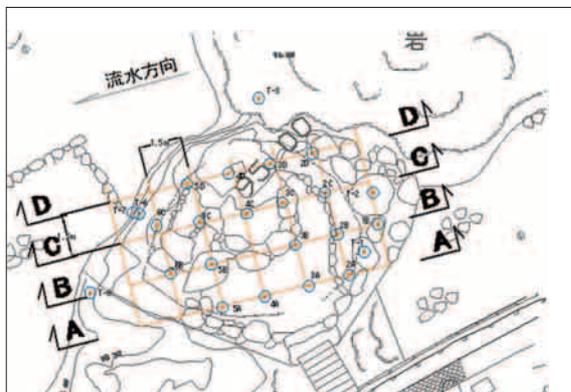


図-2 調査位置図

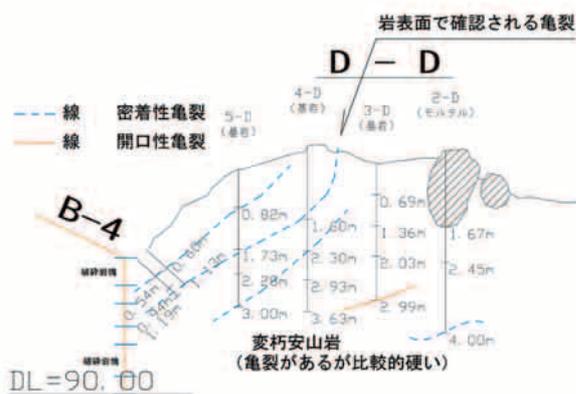


図-3 調査結果断面図 (D-D断面)

(2) 配置計画

“独鈷の湯”は、「現況の景観イメージを保全し、“独鈷の湯”の歴史と温泉場の象徴としての意義を考慮した『川のなかの温泉』の印象を与えるもの」とし、下記の条件を満たすものとした。

- ・川の中にあることが認識できる位置、形状
- ・現況の独鈷の湯の岩盤の一部を移設し活用する
- ・橋を渡って川の中に入る構造
- ・独鈷の湯の左岸側に水の流れがある

上記に加え、河積阻害とならない事を不等流計算において確認し、道路排水を阻害しない位置となるような配置計画を行った。

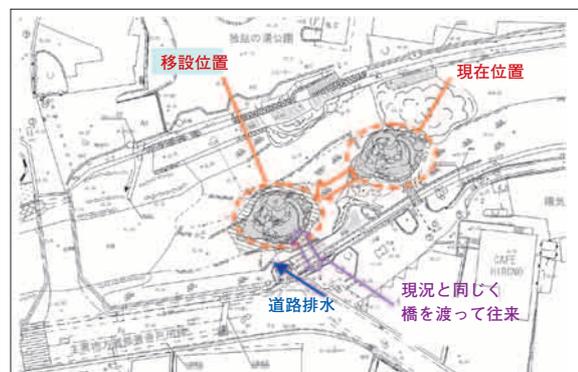


図-4 移設位置平面図

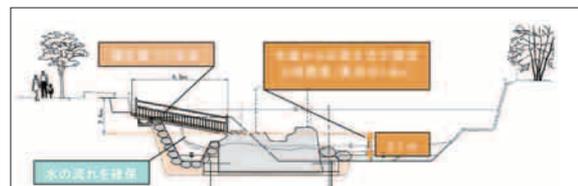


図-5 移設位置横断面図

(3) 移設工法検討

移設工法は、現地の岩盤を可能な限りそのままの状態 で移設できる工法として、岩盤の切断方式である以下の2案について比較検討を実施した。

第1案 鋼管挿入工法

- ・移設する岩盤下を削孔した後、鋼管を挿入し縁切りを行う
- ・縁切り後、ケーブルとジャッキにてけん引する

第2案 ワイヤソーイング工法

- ・移設岩盤下を部分的に削孔した後、レールを敷設し、残りの部分をワイヤソーイング工法にて切断し、縁切りを行う
- ・ジャッキアップ後、ケーブルにてけん引する

岩盤調査の結果、岩盤内部に亀裂があることが予想されたため、岩盤を切り出し、支える際には線上ではなく全体を同一面で支える必要があると判断し、経済性に優れ、全体を同一面で支える工法である第1案の鋼管挿入工法で決定した。

3. 第19回建設コンサルタント業務技術発表会

	第1案 鋼管挿入工法	第2案 ワイヤソーイング工法
概要図		
工法概要	移設岩盤下を削孔した後、鋼管を挿入し縁切りを行う。縁切り後、ケーブルとジャッキにてけん引する。	移設岩盤下を部分的に削孔した後、レールを敷設し、残りの部分をワイヤソーイング工法にて切断し、縁切りを行う。ジャッキアップ後、ケーブルにてけん引する。
概算工事費(直工)	43,110千円 (比率 1.00)	48,370千円 (比率 1.12)
長所	・鋼管全体で移設岩盤を支持するため、岩盤に亀裂が入る可能性は低い。	・施工時の騒音・振動が小さい。 ・第1案と比較して工期は短い。
短所	・第2案と比較して工期は長い。 ・ロータリーパーカッション方式で掘削した場合、騒音・振動が大きい。	・ジャッキアップした際、ジャッキアップした箇所に応力が集中するため、岩盤に亀裂が入る恐れがある。 ・第1案と比較して岩掘削量及び残土処分量が多くなる。
評価	経済性に優れ、岩盤に亀裂が入る可能性も低い。	経済性に劣り、岩盤に亀裂が入る恐れがある。

表-2 移設工法比較表

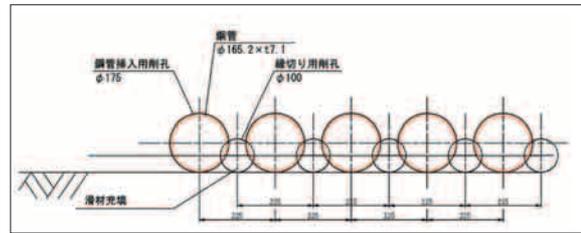


図-7 削孔部詳細図

(2) 移設する“独鈷の湯”の保護

岩盤調査の結果より、移設する岩盤の表面及び内部には多数の亀裂が確認されたため、岩盤にジャッキ推進による集中荷重が直接作用した場合、岩盤により大きな亀裂が入る可能性があり、最悪の場合、岩盤が分裂する恐れがある。これを防止するため、移設する岩盤の周囲をコンクリートにて防護を行った。防護コンクリートと岩盤との一体化は、水平方向に削孔を1mピッチで行い、鉄筋を挿入して行った。また、岩盤表面の崩壊を防止する目的として、2区あたり1本(1.5mピッチ)の差し筋を行った。

鉄筋挿入及び差し筋に使用する鉄筋径は、施工時のたわみを考慮してD19を使用した。

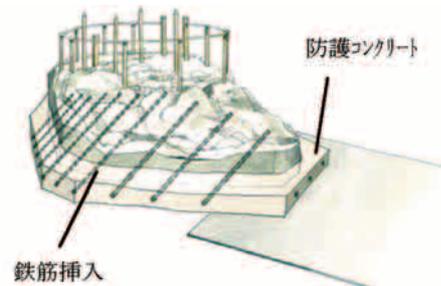


図-8 岩盤防護イメージパース

3 岩盤移設手順

(1) “独鈷の湯”と岩盤の切り離し

移設岩盤の切り離しは、“独鈷の湯”の周囲を掘り下げた後、その下に孔をあけ地面から切り離す。

その孔に鋼管を挿し込み、独鈷の湯を支える土台とした。削孔径が小さい場合、削孔本数が多くなり不経済となるため、削孔径はインナーロッドの最大径であるφ175とした。挿入する鋼管は削孔径と同程度の径とし、φ165.2とした。鋼管の下部には、地山との空間を確保し滑材を注入できるよう肉盛り溶接を実施した。

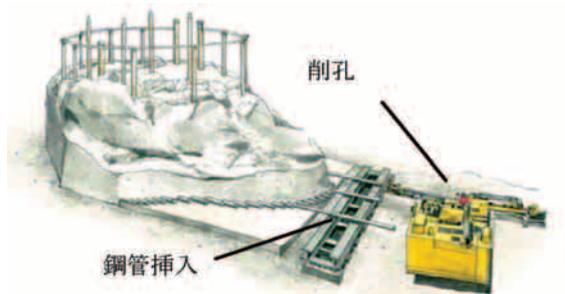


図-6 縁切削孔イメージパース

鋼管敷設の手順は以下の通りである。

- ①縁切り用としてφ100孔を225ピッチで全孔削孔
- ②鋼管挿入用の削孔時に使用する清水の逸水を防止するため、縁切り用孔にシール用グラウト材を充填
- ③鋼管挿入用としてφ175孔を225ピッチで5孔ずつ削孔を行い、鋼管を挿入
- ④ウォータージェットにて縁切り用孔に充填したシール用グラウト材を撤去
- ⑤空隙部に滑材を注入。滑材は推進用ベントナイト系滑材を有孔管にて無圧力で注入

(3) “独鈷の湯”の移動

スライド面は移設岩盤との抵抗を少なくするために、均しコンクリート打設後、鉄板を敷設した。鉄板にはあらかじめジベル筋を溶接し、均しコンクリートにあらかじめ箱抜きしておいた箇所に設置後、箱抜き部にモルタルを充填して均しコンクリートとの一体化を計った。

岩盤移設は移動方向に削孔した孔にケーブルを挿入し、ケーブルを反力台に設置して推進ジャッキにより岩盤を徐々に移動させて行った(移動質量は鋼管、巻立コンクリート等の保護材料を含め480t、移動時のジャッキによるけん引力は230tと想定)。ジャッキの基数は、ジャッキによる集中荷重の分散及び想定した抵抗力で移動しなかった場合を想定して3本とした。別途フェールセーフ機能としてPC鋼棒を設置することにより、滑り出しによる事故を防止した。

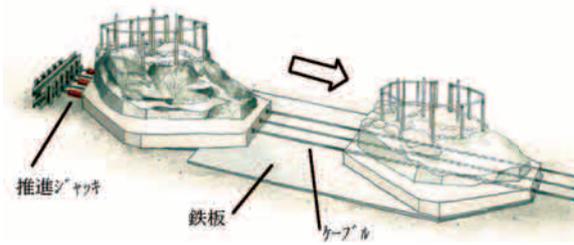


図-9 岩盤移設イメージパース

(4) 移設した“独鈷の湯”の固定

移設した直後の岩盤下面の状況は、敷鉄板上に鋼管の下面が接触している状況であり、すべりやすいものとなっている。設置後は流砂等により徐々に岩盤下面の空隙部に堆砂することとなるが、滑動に対する抵抗力が小さいものとなっている。したがって、移設した岩盤については、防護コンクリートから鉛直方向に鉄筋挿入を行い、基礎地盤と定着させるものとした。挿入する鉄筋については、東海・東南海地震におけるレベル2地震動、上流からの土石流によるレキとの衝突力、洪水時の流水圧等、“独鈷の湯”に作用する水平力のうち、最大となるレベル2地震時（揚圧力なし）における水平力（2700kN）を想定し、設計を行った。



鉄筋挿入により固定

図-10 岩盤固定イメージパース

最後に、周囲の露出した防護コンクリートを計画地周辺の景観に調和するように石積みで覆い、移設を完了した。



写真-2 移設後の状況

4 “独鈷の湯” 施設の修景検討

“独鈷の湯”施設の修景検討として、フォトモンタージュを活用し、四阿及び周囲の柵の設置について、景観面から検討を行った。河積阻害という観点からは、どちらも設置しない方が望ましいと考えられるが、景観検討部会及びまちづくり検討会で議論を重ねた結果、歴史的なシンボルとして、四阿及び柵は重要な景観要素となっているため、既存の四阿及び柵を移設し、残していく方針が確認された（洪水時は四阿及び柵は随時撤去する）。



第1案 四阿と柵を設置する案（採用案）



第2案 四阿を無くし、柵のみ設置する案



第3案 四阿と柵を設置しない案

5 おわりに

“独鈷の湯”移設工事は平成20年11月より着手され、静岡県沼津土木事務所のホームページに施工状況が随時掲載されたり、地元新聞にも記事が頻繁に掲載されるなど、地域の注目度が非常に高い事業であった。

岩盤を切断してそのままの形で移設するという前例のない設計であり、事前調査において想定していたよりかなり多くの亀裂が岩盤内部にあることが確認されたため、実際に移動するまでは不安であったが、静岡県沼津土木事務所及び施工業者のご尽力により平成21年4月6日に無事“独鈷の湯”の移設を完了することができた。

最後に、本業務の遂行にあたり、多大なるご指導とご協力を賜った沼津土木事務所、伊豆市、景観検討部会及びまちづくり検討会の関係者の皆様に感謝の意を表します。



最上流の重要な領域

中部地方整備局 企画部 技術管理課
課長補佐 兵藤 真

早いもので役所に入って数十年が経過し気が付くと、窓に近い所で仕事をしています。今まで、主に道路関係の仕事に多く携わり、調査・設計・積算・現場監督など一連の仕事を経験してまいりました。

現在は、建設コンサルタンツさんにも大変に関係が深い業務等の入札契約制度の設計や各種業界の窓口を担当しています。

昨年、入札契約制度は毎年のごとく手続きが変更となり、皆様には色々とお手数をかけている事と思います。

実は、私も担当になるまではどうして入札契約制度はこんなに色々変わるのだろうと疑問を持っていました。

約半年の期間が過ぎ、最近私なりに考えている事をご紹介します。

少し堅い話になりますが、我々が携わっている社会資本整備の特徴を考えると、調達時点で品質を確認できる商品などの「商品の購入」とは異なり、整備に携わる会社や従事する技術者の皆さんの技術力などにより品質が大きく左右されます。

特に、調査・測量・設計などの分野は社会資本整備の流れから考えると「最上流部」に位置し、その成果が社会資本の最終的な品質までも左右する重要な領域を担っています。

つまり、測量、地質調査及び建設コンサルタントの業務の成果は、建設から維持管理の各段階を通じた総合的なコストや、工事の工期、環境への影響、施設の性能・耐久性、利用者の満足度等の品質に大きく影響するとても重要なものです。

一方、社会経済情勢の変化などにより建設市場の縮小や建設関連業の構造も大きく変化しており、調査・測量・設計の分野においても工事と同様に、「ダンピング受注の発生」や「成果品の品質低下」などの問題が発生しています。

これらを放置しておく建設関連産業自体や従事している技術者の皆様にとり大きなマイナスとなってしまいます。

これらの問題が全て入札契約制度の改善により解決するものではありませんが、透明性、競争性を確保しつつ、効率的で受発注者の相互にとって負担の少なく、業務の特性に応じて真の技術力を正当に評価できる入札契約の仕組みを更に検討して行きたいと思っています。皆様方におかれましても、良いアイデア等がありましたら、ご指導いただければ幸いです。



これからの公共事業

三重県・県土整備部
松阪建設事務所 事業推進室道路課
課長 中平 弘

「無駄な公共事業」最近この言葉がメディアで多く取り上げられている。ややもすると、「公共事業は無駄」と聞き間違えそうである。

私が県に入庁したのは昭和56年だった。三重県の道路の整備率はまだまだ遅れており、当時は先輩から「伊勢湾台風の復興に予算を取られたので他の施設整備が遅れている」と聞かされていた。とにかく県内の道路や河川等を整備するために遮二無二仕事を頑張っていた。

あれから27年が経ち公共事業のあり方も大きく変わってきた。三重県では平成10年度に計画的な道路整備を行うために「道路整備10箇年戦略」を策定し公表したが、それが「新道路整備戦略」に引き継がれて現在進行中である。県の管理する道路について整備の必要性を種々の観点から評価し、今後整備を行う箇所を重点整備箇所として位置付け、重点的、効率的投資を行うもので、当時、他府県に先駆けて策定した画期的なものと言えた。この計画に当初携わった頃は10年間で三重県の道路は概成すると思っていた。しかし、スタートした時の予算は年間500億円であったが、公共事業予算の減少とともに、現在は2百数十億となってしまった。

このような中、路線区間の全てを一定幅員で改良するのではなく、部分的に2車線にしたり歩道の幅員を縮小したりする「ローカルルール」が登場した。

平成の初期までは補助事業を行うなら2車線が当たり前であったがこのルールにより道路整備のコストと期間が縮減された。新

しい公共事業の登場である。

三重県は南北に長く、都市部から中山間地域まで様々な道路があり、延長も約3,500Kmと長い。これらの道路を一様に整備していたのでは予算がいくらあっても足りない。片側3車線の道路であっても渋滞が発生し、100点満点の道路整備をできない区間もある一方、所々に待避所を設ければ100点満点の区間もある。

「無駄な公共事業」これは様々な地域において一様の基準で公共事業を行ってきたために一部の地域で発生した100点満点以上の道路整備等ではないだろうか。

道路の幅員や歩道幅員は広ければ広いに越したことはない、しかし、施設の維持修繕に予算を注入しなければならなくなりそして、ますます予算が厳しくなる今後において、地域に合った「身の丈整備」と「維持管理予算を減少させる工夫」が重要になるのではないだろうか。

このような状況の中で三重県では歩道整備の手法として、ローカルルールを更に進化させた「あんしん路肩」の整備に着手した。

この事業は通学路で歩道の整備が必要な区間でも、それほど交通量が多くない場合、既設の道路敷きを利用して歩行空間を確保するもので、正規の歩道幅員を確保せず原則、用地買収が必要ないことで要望から完成までの時間が短く整備に必要な予算も少なく済むことから県内各地で事業が広がっている。

一方、山間部の道路などでは待避所を所々に設けて譲り合う「思いやりロード」としての整備を行っている。これも今後、新しい道路整備として脚光を浴びることとなると思う。

前例にとらわれず、「公共事業は無駄」にしないための工夫に取り組んでいくことが県民に対するこれからの我々技術者の大きな仕事であると考えている。



土木業界について感じること

藤コンサル(株) 設計部 水工課
高松 伶介

『2000年9月11日、東海豪雨の被災をきっかけに土木工学に進路を決めてから早くも9年。願いが叶ったかのように大学・大学院、そして現在の会社においても主として河川に関わった業務に携わっています。

本投稿では、現在の土木業界について私の考えを述べます。

若手技術者の使命

社会資本整備を担当する土木業界は、携わる技術者への注目度が低く、また公共性の高さからか一部の不祥事が過大に取り上げられるなど、若手技術者の夢もプライドもしほみがちな環境となっているように感じます。

土木は、構築する施設が必要不可欠な生活の基盤を構成していることから、『あつて当然』、まるで空気のように人々に浸透しています。また、それゆえ、その重要性に気づかれにくい状況となっており、こうした状況は、若者、特に学生の土木志向の足かせとなり、将来の優秀な技術者の誕生に大きな支障となっているように思えます。この状況を変えていくことが我々若手技術者の使命のひとつではありますが、即効的・具体的な対策はまだ私には見つけ出せておりません。しかし、少なくとも、現在

の業務にプライドを持ち更に技術力を高めたいという高い倫理観の中で、古い習慣やしがらみから脱却し、社会に対し社会資本整備の重要性を今まで以上の努力で情報提供していくことが重要であると思います。

新時代の技術者になるために

さて近年、河川においては、「多自然型川づくり」から「多自然川づくり」へと整備方法の視点が見直され、河川の整備が対処療法的な個別対策から、連続性を考慮した整備へと変遷を遂げてきました。しかし、土木全般を捉えると、河川、道路、都市計画、など各専門分野が独立しているため、各々が有する優秀な技術が有機的につながり社会資本全体を見据えた整備となっていないように感じます。幸いにして、コンサルタントでは、特に中小では、入社以来、ひとつの専門分野のみに携わることは難しく、いろいろな分野の業務をこなしていかなければなりません。しかし、これが、今後社会から求められる技術者として成長を遂げていく過程においてとても重要なことであり、現在、私は、積極的に多方面の分野の業務に携わることを求めています。

そして、将来は、こうした多方面の土木分野の知識を基礎として河川の技術を高め、安全で安心でき、環境と調和した、社会から慕われる河川の構築を図るなど、土木技術者としてその存在価値を高めたいと考えています。



ヒューマンエラー

(株) 葵エンジニアリング 技術管理室
松浦 里史

(1) はじめに

現在建設事業における設計の品質や責任がますます高まってきていますが、設計の不備や不整合が施工段階で見つかるという事態が頻繁に起きているように思います。「つい・うっかり」から「ミスだと思わなかった」までその要因は様々です。

(2) 指摘(ミス)の傾向

国土交通省において行われたクロスチェックより、指摘件数を区分別にまとめた結果があります。その結果は、「計算と図面の不整合」「根拠不明」「計算過程の誤り」の3項目だけで85.6%を占めているものでした。

その主な原因は、「プログラムに頼りすぎ」「基準の理解不足」「照査体制の不十分」など、どこかで聞き覚えのあることばかりで、耳が痛い思いがする内容ですが、設計ミスの大部分が上記のようなことが原因となっているようです。

(3) ヒューマンエラーとその防止

それではなぜこのようなミスを行ってしまうのか?さまざまな業種で同様な問題を抱えていると思います。

ヒューマンエラーとは、人間の過誤(ミス)のことを示します。「不本意な結果を生み出す行為や、不本意な結果を防ぐことに失敗する」ことです。

ヒューマンエラーの最も一般的な防止策は、失敗事例をまとめることです。しかしそれらが生かされず同じ失敗が繰り返されているのが現状だと思います。その原因の1つに、「失敗知識の伝達」がうまく機能していないと言われています。過去に起こった失敗から得られる知識が、正しく伝達されていないことが要因となっているのです。これは、他人から自分、自分から他人、自分から自分などすべてにおいて言えることだと思います。

通常失敗を引き起こす過程は、原因=失敗と考えるものです。この考え方に従えば、原因さえ取り除けば結果は起こらないこととなります。

しかし、失敗についてよく考えてみると、ある原因によって人が「行動」し、結果失敗に至ることが分かっています。

設計ミスで例えると、「(原因) 設計の本質を理解していないにもかかわらず、(行動) 能力不足を補うことをしないうままプログラム頼りに進めてしまい、(結果) 計算過程を間違えてしまう。」ということです。

“結果”が出た後のチェックでは、ミスを100%見つけることは難しいことです。したがって、“行動”をする前に、もう一度確認をすることで、ミスは軽減されるものだと思います。

(4) まとめ

いかに努力してもヒューマンエラーをなくすことは不可能です。したがって、ミスは起こるものとして対策を練り、過去の失敗から学ぶことで、大きな問題とならないレベルまで軽減するように努めることが必要だと思います。

マニュアルに頼りすぎず、常に適度な緊張感を持って、これからの仕事に取り組んでいきたいと思っています。



新政権
公共事業は
カッティング
グー

金額を
じつと見つめる
年金便

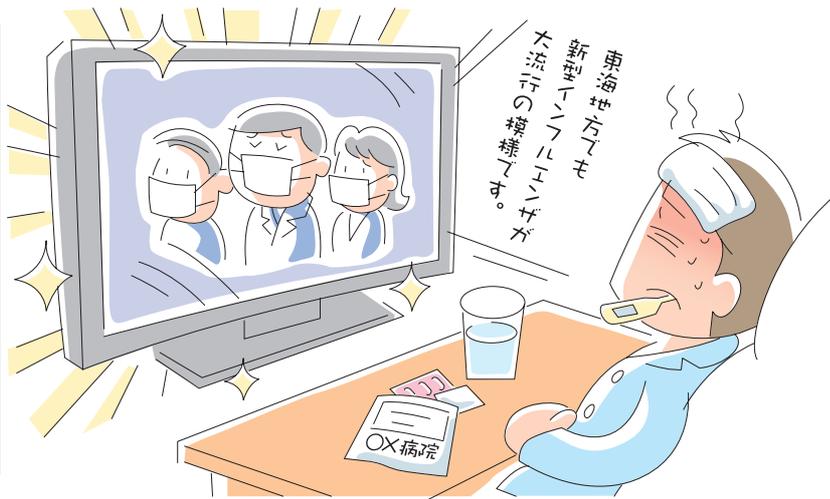


血圧と
入札額は
範囲内



書いてくれ
ボーナス支給
マニユフェスト

流行(はやり)好き
テレビ・インフル
新型に



鶴舞(つるま)にて
建コンフェア
大盛況

総務部会

運営委員会

運営委員長 田中美範

運営委員会の主な活動としましては、以下のとおりです。

- ・支部運営の基本的事項の企画、立案等
- ・総会、協議会等の議案立案及び運営検討
- ・各講習会、試験の実施及び支援
- ・特命委員会の運営・支援

上半期の活動は以下のとおりです。

■文書管理規定の作成

本年は中部支部における諸々の文書保存と廃棄処分を適切に行い、事務の合理的運営を資することを目的に「文書管理規定」の作成に向け検討を行っており本年度中に運用を開始する予定です。

■カルチャーセミナー

福利厚生関連といたしまして、9月23日にカルチャーセミナーを「建設コンサルタントフェア in 鶴舞」と同時に「津・高虎太鼓」の太鼓演奏および「KOTOKIAT」の琴と太鼓の演奏を奏楽堂特設ステージで開催しました。



「津・高虎太鼓」の太鼓・「KOTOKIAT」の琴の演奏

■運営委員会の開催

上記活動に係る実施内容の検討のため4回開催

下期の活動予定は以下のとおりです。

■独占禁止法遵守講習会

11月13日(金) 昨年同様、建コン中部支部、(社)全国上下水道コンサルタント協会中部支部、中部地質調査業協会の3協会の共同で開催いたします。

総務部会

災害対策委員会

災害対策委員長 川口 幸三

災害対策委員会の主な活動といたしましては、以下のとおりです。

- ・災害時会員連絡名簿の修正、確認
- ・防災演習の実施内容の検討、実施
- ・名古屋市との災害時緊急応援訓練の内容検討、実施

■災害時会員連絡名簿の修正、確認

愛知県・愛知県道路公社及び名古屋市との「災害時緊急支援協定」に基づく支援会社の退会及び新規支援可能会社による変更・追加を実施し、協定先へ提出しました。

■防災演習

本年も9月1日の「防災の日」に本部と支部が連携して防災演習を実施しました。

四国支部管内(室戸岬沖)で大規模地震の発生を想定し、当協会の「防災演習システム」を利用した本部と支部、支部相互間の情報伝達の確認、及び支部と支部会員各社との情報連絡・確認を検証しました。

大きなトラブルもなく、情報連絡、確認ができました。会員各社のご協力に感謝申し上げます。



防災演習

■委員会の開催

上記活動に係る実施内容の検討のため、2回開催

■その他

名古屋市緑政土木局道路維持課・橋梁課、名建協および建コン協との合同打合せ

緊急通行車両等の事前届出等についての説明会

下期の活動は、以下のとおりです。

- 名古屋市との災害時緊急応援訓練の内容検討、実施
- 愛知県・愛知県道路公社との「災害時緊急支援協定」のうち、各事務所等の点検橋梁数のアンバランスについて、幹事会社の要望に基づき、愛知県等と協議、調整を行う予定
- 上記に係る委員会の開催

対外活動部会

対外活動委員会

対外活動委員長 榊原 雅彦

平成21年度の中部地方整備局の発注形態において、昨年度のプロポーザル方式から、公募型の総合評価方式が大きく拡大したことによる受注への環境が大きく変化し、建設コンサルタント業務の「価格のみの競争」から「価格と品質に優れた調達」へと転換されてきました。

建設コンサルタント業務が、公共事業の上流部分を担っていることから、良い品質をタイムリーに提供する役割があることから、今後もその制度・仕組みについては変化が進むものと考えます。

平成21年度上半期においても、これまで以上に対外活動の役割が重要となっていることから関係行政機関との意見交換を中心とした委員会活動を下記の通り報告いたします。

■上半期活動状況

1) 建設コンサルタントの要望と提案に関する意見交換会（中部地方整備局）

- ・日時 平成21年6月8日（月）
- ・場所 KKRホテル名古屋
- ・出席者 中部地方整備局 佐藤局長他8名
愛知県建設部 葛島技監
岐阜県県土整備部技術検査課 和田課長
三重県県土整備部公共事業総合政策分野総括室 土井室長
静岡県建設部 前田理事
名古屋市緑政土木局技術指導課 早川課長
静岡市建設局 富野局長
浜松市土木部 清水参事
建設コンサルタンツ協会（本部） 廣谷会長他9名
（中部支部） 田部井支部長他6名

- ・内容 ①技術力による選定
②建設コンサルタントの新たな役割
③品質の確保と照査

建設コンサルタンツ協会としての重要課題を「要望と提案」としてとりまとめ、建設コンサルタント白書も活用し、発注者に対し意見交換を実施し、品質向上への取組みについての対応も議論された。

- 2) 品質向上推進行動に関する活動（品質向上委員会の開催）
- 3) 「地域コンサルタント委員会」への参加と「地方自治体発注状況調査」への対応実施
- 4) 「建設技術フェアin中部」幹事会への出席
- 5) 建設コンサルタントフェアin鶴舞公園への参加
- 6) 関係行政機関への協会の活動紹介及び各種行事への参加案内の紹介

■下半期の活動予定

- 1) 中部地方整備局と協会中部支部の意見交換会開催（10月）
- 2) 「建設技術フェアin中部」への人員派遣（10月）
- 3) 各地域活動（関係行政機関活動）の随時実施

対外活動部会

編集委員会

編集委員長 岩橋 英雄

編集委員会の主な活動は次のとおりです。

- ①広報誌「名称：図夢in中部」の編集、刊行及び頒布に関する事項
- ②電子情報掲示板等を利用する広報に関する事項

■平成21年度上半期の活動（4月～9月）

◇平成21年10月に支部創立40周年記念誌の発刊が予定されていたため、8月に発刊予定の「図夢in中部 第24号」は平成22年1月に延期しました。

上半期は、毎年8月発刊に向けての編集活動を行なう期間ですが、発刊を延期したためこの期間を利用して、掲載内容の見直しを含めた検討を3回行いました。

〔理由：1997年に創刊号が発刊されてから今年で12年経過している。〕

主な結果は、次のとおりになりました。

- 1.特集〔今までのような形の特集は1号毎とする。24号は特別企画として40周年記念行事〕
- 2.巻頭言〔継続・・・支部長、副支部長に依頼〕
- 3.技術発表会〔当面は継続し、その後は状況の変化に応じて判断する〕
- 4.投稿の葉書は廃止し、HPの投稿を利用する。 など

◇建設コンサルタントフェアin鶴舞公園への参加

対外活動部会事業広報委員会が、中心となって行った「建設コンサルタントフェアin鶴舞公園」に編集委員会より5名のスタッフで参加し、大勢の市民が参加する中で、大盛況でした。

■平成21年度下半期の活動（10月～3月）

◇本誌〔図夢in中部Vol.24〕の発刊に向けての編集活動

今回は特別企画として「建設コンサルタント中部支部 創立40周年記念行事」を掲載します。10月22日に行われた記念式典の様子や、記念誌の紹介を企画しました。



図夢in中部

編集委員会では、中部支部の各部会・委員会の活動内容を広報誌やHPを通じて紹介しています。会員皆様からのご支援を頂き、さらに分かりやすく充実した内容を提供していきたいと考えています。

対外活動部会

事業広報委員会

事業広報委員長 浅井 俊治

建設コンサルタントの知名度アップと、我々の仕事を一般市民の皆さんに御理解していただくという思いで「建設コンサルタントフェア in 鶴舞公園 ～まち・みち・かわ・はしを計画する人、設計する人!～」を、中部支部の総力を挙げて開催しました。

今年は、名古屋市役所からの鶴舞公園100周年事業参加要請に応じて、奏楽堂付近を借り切り開催となりました。

当日は、シルバーウィーク最終日ということもあり、親子連れを中心に900名程の市民が来場し大盛況でした。

クイズラリーを目玉に、まちコーナー・みちコーナー等のコーナーごとに展示したパネルを熱心に見ていただきました。併せて、紙飛行機作り・飛行コンテスト・CG交通事故体験や、スーパーボールすくい等を行いました。

このような大きなイベントは2回目ですが、失敗したこと、反省すべきことが多々ありました。しかし、皆さんの御協力で目的を達することができました。

今後も、このようなイベントを開催したいと考えておりますので、御意見等ありましたら申し出ただけであれば幸いです。

今年の「打ち水大作戦」は、広小路夏まつり開催セレモニーに組み込まれたイベントとして参加しました。来年も参加し、建設コンサルタントのPRパフォーマンスをしていきたいと考えています。



建設コンサルタントフェア in 鶴舞公園

情報部会

情報委員会

情報委員長 松永 善晴

【9月末までの活動報告】

■ホームページのリニューアル

中部支部の40周年を記念して支部ホームページをリニューアルしました。様々な情報へアクセスしやすくなるよう、これまでのページ構成を見直しました。対外活動の記録を残しておけるようにしたり、最新情報を事務局で簡単に入力することができる機能を追加して更新情報がトップページで確認できるようにしたりしました。

ホームページについては今後も継続的に改善を行っていきたいと考えておりますので、ご意見・ご要望等がございましたら、情報委員会までお寄せください。



ホームページ (<http://www.ccainet.org/>)

■フォトコンテスト

今年で第5回を迎えたホームページの背景写真募集は、今回からフォトコンテストとして趣向を変えて、優秀作品ではなく秀作も掲載することとしました。ホームページのリニューアルに伴い、過去の優秀写真も閲覧できるようにしました。

今回の優秀作品4点を紹介します。



「赤とんぼ橋」
大日本コンサルタント
(株)
宮田 秀太 様

「リニモ橋脚のトンネル」
東洋技研コンサルタント(株)
古西 和夫様



「東山植物園～技術者の向上
心と青空～」
玉野総合コンサルタント(株)
岡村 淳 様

「山に出現したやじろべえ～
新旅足橋架設～」
(株)長大
横山 祐治 様



【今後の活動予定】

■情報セキュリティ講習会

11月17日に情報セキュリティ専門委員会主催による情報セキュリティ講習会を以下の内容で予定しています。

- ・建設コンサルタントにおける情報セキュリティ対策の必要性
- ・情報セキュリティ対策の実施例

情報部会

CALS/EC委員会

CALS/EC委員長 南石 雅明

CALS/EC委員会では、CALS/ECに関する情報の収集と提供、対応状況の把握、および関係機関との連絡調整等を通じ、支部会員におけるCALS/EC対応支援を目的とした活動を行なっています。

【9月末までの活動報告】

■GIS中級講習会の開催

今年で6回目の開催となったGIS講習会（本部データ連携専門委員会と支部共催）は毎年全国の支部で開催されています。中部支部では、昨年度初級編の講習会を開催したことから、今年は新たにGISの中級者を対象としたGIS初級講習会を開催しました。参加者は30日が8名、31日が19名でしたが、GISに関する基本的な知識、機能及び操作を覚えて貰うため、持ち込みノートPCによる実ソフトを用いた実習などGIS中級者にも分かりやすい講習会となりました。（平成20年7月30日～31日 於 名古屋市工業研究所）



GIS中級講習会の様子



【今後の活動予定】

■本部CALS/EC委員会開催の会議

本部では、各支部のCALS/EC委員会への情報提供と意見交換のため、支部連絡会議を年1回程度開催しています。第1回支部連絡会議（平成21年10月16日 於 本部事務局）に2名の委員を派遣する予定です。

■CADセミナーの開催

昨年度のCAD製図基準に引き続き、今年の6月に「CAD製図基準に関する運用ガイドライン」の改訂が行われました。このため、本ガイドラインの改定内容と事例及び電子納品データのチェック内容に関する知識を習得して頂くため、CADセミナー（平成21年11月19日 於 名古屋ダイヤビルテック株式会社）を定員50名として開催する予定です。

技術部会

道路委員会

道路委員長 長屋 俊人

(4月から10月)

道路委員会では、講習会・見学会・講師派遣等、各種活動を通じて道路関連事業の設計・管理に従事する技術者が、様々な活動を通じて技術力の向上を図り、併せて会員相互の親睦を図ることを目的として活動を行いました。

1 道路委員会

委員会を4月～10月の間に7回開催し、講習会、見学会、講師派遣等の企画、運営について協議しました。

2 平成21年度 道路委員会の活動報告

(1) 平成21年度道路検討グループ総会

開催日：平成21年6月5日(金) 14:00～16:30

場 所：名古屋都市工業研究所

① 平成20年度活動報告および平成21年度活動方針等の報告

② 記念講演

テーマ：「道交法改訂に伴う自転車の位置づけと今後の在り方」

現在の自動車・歩行者・自転車の問題点、諸外国事例等

講 師：交通評論家 矢橋 昇氏



道路検討グループ総会

(2) 技術講習会及び現場見学会

① 技術講習会の開催

開催日：平成21年8月26日(水) 14:00～16:00

場 所：建設コンサルタンツ協会 中部支部会議室

テーマ①：「国道41号宮峠における補強土工法の設計」

講 師：岐阜大学工学部 辻 慎一郎氏

テーマ②：「ジオテキスタイルを用いた補強土壁(アダムウォール)の紹介」

講 師：前田工織 伊豆原 大介氏

(月) 技術講習会及び現場見学会の開催

開催日：平成21年10月30日(金) 14:00～17:00

場 所：名古屋市中区錦一丁目4-16

日銀前KDビル6F

テーマ：「自転車道整備に関する現場状況把握」
桜通りの自歩道(自転車で体験型現場見学会)



自転車で体験型現場見学会



技術資料の説明状況

(3) 社会貢献活動

① 建設コンサルタントフェアin鶴舞公園への参加

開催日：平成21年9月23日（水）秋分の日

場所：鶴舞公園（奏楽堂付近）

活動概要：

- 8時30分～ 現地集合
 パネル展示テント設置等会場設営
- 9時30分～ 設営完了
 呼び込み、PR開始
- 10時～15時 開会式
 パネル説明（クイズラリー対応）
 閉会式
- ～15時50分 テント等撤収、片付け
 解散



道路委員会のブース状況-3



道路委員会のブース状況-1



道路委員会のブース状況-2

(4) 業務技術発表会

日時：平成21年10月7日（水） 13:30～16:40

場所：桜華会館（桜の間、竹の間）

参加者：117名

道路関連から3編

- ① 歩道・自転車道利用環境整備の検討及び設計
松井 祐樹氏（株式会社オリエンタルコンサルタンツ）
- ② 静岡市における道路休憩施設設置計画検討
濱田 直樹氏／市東 哲也氏／山田 邦博氏／
土居 武氏（パシフィックコンサルタンツ株式会社）
- ③ 駅周辺の狭隘道路を歩車共存道路化するための社会実験を活用した取組み
東山 泰治氏／竹内 禎氏／本田 俊介氏
（中央コンサルタンツ株式会社）

このうち、③『駅周辺の狭隘道路を歩車共存道路化するための社会実験を活用した取組み』を発表した東山泰治氏が、最優秀賞を受賞されました。

3 平成21年度下半期の主な活動予定

(1) 技術講習会

日時：平成21年11月18日（水） 14:00～17:00

会場：建設コンサルタント協会 中部支部会議室

- 講習内容：① 舗装技術、舗装設計
 ② 道路構造令、路線選定

技術部会

河川委員会

河川委員長 風間喜章

河川委員会では、二つの分科会で実施する専門技術に関する交流活動、技術セミナー、技術発表会の開催等を通じて、会員の皆さんの技術交流と情報交換を図るとともに、(社)建設コンサルタンツ協会中部支部の活動を推進することによって、コンサルタントの地位向上ならびに河川業務の円滑な実施のための環境作りを目指し、活動しております。

なお、平成21年度は当会員へ、136名(30社)のご登録をいただいております。

1. 平成21年度上半期の主な活動報告

(1) 河川計画委員会

委員会は4月～10月で7回開催し、総会・分科会毎の講習会・見学会等の企画・運営、河川関係のトピックス等について協議しました。

(2) 平成21年度河川委員会総会

平成21年度河川委員会総会を、平成21年7月7日、今池ガスビルで58名(25社)の参加をいただき開催しました。

・開催日：平成21年7月7日(火) 14:20～19:10

・会場：今池ガスビル

・参加人数：58名(25社)

・内容

I 総会

①平成20年度活動報告

②平成21年度活動計画

II 講演会

『2008都賀川水難事故の調査と今後の対策について』

神戸大学大学院 工学研究科 市民工学専攻

藤田 一郎教授

III 交流会

藤田 一郎教授



総会の様子

(3) 建設コンサルタントフェアin鶴舞公園への参加

平成21年9月23日(水)に鶴舞公園の広場にて「建設コンサルタントフェアin鶴舞公園」が開催されました。このイベントは、建設コンサルタント事業に関する最新情報、暮らしと建設コンサルタントの関わりを一般の方々に紹介し、国民の暮らしを支える社会資本の整備と豊かな国土づくりに欠かせない建設コンサルタントのイメージアップを図ることを目的としたものです。

河川委員会においては河川技術に関わる建設コンサルタントの役割について紹介するパネルを11枚展示しました。

当日は、鶴舞公園100周年記念イベント期間中でもあり、多くのご家族がクイズラリーなど各種イベントに参加されました。



パネル展の内容(一例)

(4) 愛知県と三重県への研修会

愛知県と三重県の河川計画実務研修として、愛知県では5テーマに対し5講師、三重県では1テーマに対し1講師を派遣しました。

(5) 河川見学会

・開催日：平成21年9月3日(木)

・場所：国土交通省多治見砂防国道事務所管内

落合川本谷第10堰堤施工現場(岐阜県中津川市)

・参加者：17社 31名



試験施工箇所での説明



参加者全員による集合写真

(6) 分科会活動

[第1分科会(河川計画・環境)]

○平成21年度 第1回分科会

- ・開催日：平成21年9月30日(水)
- ・会場：桜華会館(3F菊の間)
- ・講師/演題

名城大学理工学部環境創造学科 谷口 義則准教授
「水辺環境の保全と生態学的研究」

参加者：12社24名

今年の第一分科会は、名城大学理工学部環境創造学科の谷口義則准教授に『水辺環境の保全と生態学的研究』について講演していただきました。

地球温暖化が淡水魚類群集に及ぼす影響について、河川スケール、水系スケール、大陸スケールでの国内外の研究事例をもとに大変分かりやすく説明していただきました。また、オシロコマとアメマスの子息と水温との関係について、実験結果をもとに興味深く説明していただきました。

その後の質疑応答では、多自然川づくりを行う上での河川技術者(コンサルタント技術者)へのアドバイスや、県内の成功事例の紹介なども含め、活発な意見交換がなされました。

また、終了後には少人数ではありましたが谷口准教授を囲むでの懇親会を開催し、分科会で聞けなかった事を質問するなど有意義な時間を過ごす事ができました。



第1分科会の様子

[第2分科会(河川構造計画・設計)]

○平成21年度 第1回分科会

- ・開催日：平成21年10月16日(金)
- ・会場：建設コンサルタンツ協会中部支部(会議室)

・講師/演題

株式会社クボタ工建 宮川 恒夫氏
「堤防における樋管の推進工法」

参加者：17社24名

第2分科会では、株式会社クボタ工建 宮川恒夫氏に「堤防における樋管の推進工法」について講演していただきました。樋管構造における堤防非開削による遮水壁構築工法として、ダクタイル管を用いた推進工法について、実際の施工事例も交えながら説明していただきました。

質疑応答では、具体的施工事例における採用理由や具体的な設計・施工方法など活発な意見交換が行われました。



第2分科会の様子

(7) 業務技術発表会

- ・開催日：平成21年10月7日(水) 13:30~16:40
- ・会場：桜華会館(桜の間、竹の間)
- ・参加者：117名 うち「河川、都市計画」で68名
河川計画関連から4編

- ①湖における覆砂による水質改善対策
加藤稔(玉野総合コンサルタント株式会社)
- ②修善寺川に残る岩盤の湯(独鈷の湯) 移設設計
磯部正治(中央コンサルタンツ株式会社)
- ③中小河川における豪雨災害対策アクションプランの策定と実施状況 林吉則(株式会社建設技術研究所)
- ④岐阜県自然共生ベストリバー整備事業について
鳥居義仁(いであ株式会社)

2. 平成21年度下半期の主な活動予定

「平成21年度河川技術セミナー」として三木地盤環境工学研究所の三木博史所長、京都大学大学院工学研究科の小林潔司教授を講師にお招きして、下記のセミナー開催を企画しました。

- ・日時：平成21年12月1日(火) 13:30~17:00
- ・会場：愛知県産業労働センター 会議室1201
愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4-38
- ・講師/演題：

「堤防マネジメントを目指した新たな展開」

三木地盤環境工学研究所 三木 博史所長

「土木施設のアセットマネジメント」

京都大学大学院工学研究科 小林 潔司教授

技術部会

構造土質委員会

構造土質委員長 長崎 隆之

平成21年度の構造土質委員会は、昨年度同様に委員長以下12名にて会員の技術力向上と会員相互の交流及び新技術情報の共有等により、主に橋梁分野におけるコンサルティングエンジニアとしての資質向上の一助となることを目的として活動しています。

今年度上半期の主な活動及び下半期の活動予定についてご報告します。

1. 平成21年度上半期の主な活動

(1) 委員会活動

今年度は、4月～10月の間にて計7回開催しました。

役員会・技術部会及び中部地整意見交換会等の報告、総会立案、技術講習会・現場見学会・講師派遣検討及び建設コンサルタントフェアin鶴舞準備等を行いました。

(2) 平成21年度 構造・土質委員会総会

開催日時：平成21年7月2日（木）

開催場所：名古屋市工業研究所

参加者：25社43名（委員を除く）

1) 平成20年度活動報告

定例委員会8回、委員会総会、技術講習会2回、現場見学会1回、講師派遣（中部地整、愛知県）、建設コンサルタントフェアinオアシス21参加

2) 平成21年度活動計画

定例委員会9回、委員会総会、技術講習会2回、現場見学会1回、講師派遣（中部地整、愛知県）

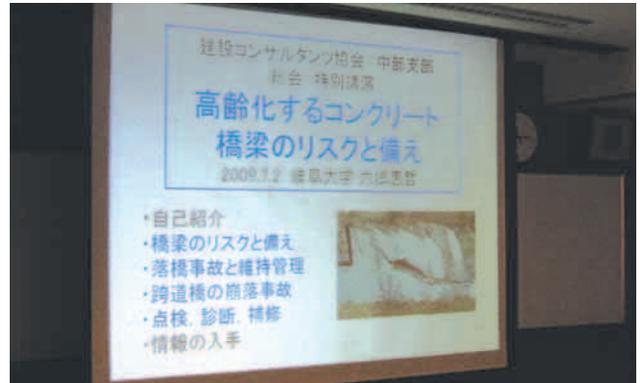
3) 講演「高齢化するコンクリート橋梁のリスクと備え」

講師：国立大学法人岐阜大学工学部

社会基盤工学科 六郷 恵哲教授



講師 六郷恵哲教授



講演会説明パネル



技術講習会の様子

(3) 平成21年度 第1回技術講習会

開催日時：平成21年7月2日（木）

開催場所：名古屋市工業研究所

参加者：24社55名（委員を含む）

1) 講演①「鋼橋の架設における新技術」

講師：(社)日本橋梁建設協会
架設部会 大倉 誠氏

2) 講演②「鋼橋の維持・補修・補強」

講師：(社)日本橋梁建設協会
保全第二部会 本間 順氏



講師 大倉 誠氏



講師 本間 順氏

(5) 業務技術発表会 (担当: 都市計画委員会)

技術部会主催による4委員会合同行事として実施しました。
 開催日時: 平成21年10月7日 (水)
 開催場所: 桜華会館 (桜の間・竹の間)
 参加者: 117名
 発表者: 合計13編 (構造・土質3編、道路3編、都市計画3編、河川4編)
 構造土質関係としては、第1会場にて優秀賞・プレゼン大賞を受賞しました。

(6) 講師派遣

平成21年度は、中部地整へ1講座3名、愛知県へは11講座延べ18名の講師を派遣しました。

2. 平成21年度下半期の主な活動予定

(1) 委員会活動

【第8回構造土質委員会】
 11月26日 (木) 15:00~17:00
 【第9回構造土質委員会】
 12月中旬開催予定 15:00~17:00

(2) 平成21年度 第1回現場見学会 (工場見学会)

開催日時: 平成21年11月19日 (木) 12:00~18:00
 開催場所: JFEエンジニアリング (株) 津製作所

(3) 平成21年度 第2回技術講習会

開催日時: 平成21年12月16日 (水) 13:20~16:50
 開催場所: 名古屋市工業研究所
 1) 予定講演①「鋼管杭・鋼矢板の最近の技術動向」
 講師: 鋼管杭・鋼矢板技術協会
 2) 予定講演②「アダムウォール工法の紹介」
 講師: アダムウォール協会

以上



技術講習会の様子

(4) 建設コンサルタントフェアin鶴舞

開催日時: 平成21年9月23日 (水)
 開催場所: 鶴舞公園 (奏楽堂付近)
 参加者: 約900名
 社会貢献活動として、当委員会から7名が応援参加しました。



建設コンサルタントフェアの様子

技術部会

都市計画委員会

都市計画委員長 高木 智

(4月から10月)

都市計画委員会では、技術研鑽を通じて会員が集い、交流する場づくりをめざしており、学識経験者、民間の方々との技術的な交流を中心に、3ワーキングを主体とした活動を行いました。

1 都市計画委員会

委員会を4月～10月で7回開催し、ワーキング活動、見学会、講習会の企画、運営について協議しました。

2 都市計画検討グループ

都市計画委員会のワーキング活動は、都市整備WG、交通WG、ランドスケープWGの3WGで活動します。

- ・参加企業数25社 (前年度比▲1)
- ・員 数104名 (前年度比 0)

3 平成21年度上半期の主な活動報告

(1) 平成21年度都市計画委員会交流会

開催日：平成20年6月26日13:30～16:45

場 所：名古屋都市センター

交流会申込59名(参加者53名)

会員数(104名)に対する申込率57%(参加率51%)

- ① 平成20年度活動報告と平成21年度活動予定等
- ② 講演テーマ

「緑のまちづくりと文化」

講師：名城大学農学部 教授

農学博士 丸山 宏氏



③ 講演概要

- ・「ロンドンのプライド」展、公園の世紀」について
- ・日本における近年の動き「景観法(平成16年6月)、文化的景観(平成17年4月)、歴史まちづくり法(平成20年5月)について
- ・「緑」行政の射程「緑」の質、「緑」の歴史、事例から考える」について

(2) ワーキング活動

① 合同ワーキングの開催

開催日：平成20年5月14日(水)

場 所：建コン協中部支部会議室

参加者：17名

WG概要：

本年度の見学会、講演会、ワーキング活動内容について、その方向性に関する意見交換を実施しました。見学会については、亀山市の関宿、豊田町のスマートIC、静岡空港、北大阪の彩都という候補があがりました。講習会テーマは、観光とまちづくり、自転車道、COP10という候補があがりました。これらのテーマについては、総会にて参加者にお聞きすることになりました。

○WG活動を受け、総会における会員の意見

見学会候補テーマ：①亀山市関宿のまちづくり(8名)、②静岡豊田町スマートインターと静岡空港(16名)、③彩都(茨木他)(14名)

講習会候補テーマ：①観光とまちづくり(12名)、②自転車交通・空間整備(9名)、③COP10(15名)

この結果を踏まえ、都市計画委員会では本年度の見学会、講習会の活動を計画しました。



(3) 社会貢献活動

① 建設コンサルタントフェアin鶴舞公園への参加

日時：平成21年9月23日(水) 秋分の日

場所：鶴舞公園

●都市計画委員会のテーマ

都市計画委員会では、「みんなが楽しく、快適に暮らせる明日の「まち」を考えています。」を主題にパネルを作成し、来訪者に説明しました。



都市計画委員会のブース状況-1



都市計画委員会のブース状況-2

(4) 見学会

主 題：「パーキングエリアを活用した周辺開発～遠州豊田 スマートIC～」
 日 時：平成21年10月1日（木）
 訪 問 先：遠州豊田パーキングエリア、富士山静岡空港：見学
 磐田市役所建設部区画整理課豊田分室（福祉センター）：講習
 行 程：9：00名古屋駅西口発⇒貸切バス（東名高速経由）⇒11：15富士山静岡空港（富士山静岡空港見学、遠州豊田スマートIC開発講習・見学）
 16：30遠州豊田PA発⇒貸切バス（東名高速経由）⇒18：00名古屋駅西口着
 申込人数：22名（参加人数 19名）
 参加費用：3,000円/人
 主 催：都市計画委員会 交通WG



(5) 業務技術発表会

日 時：平成21年10月7日（水）13:30～16:40
 場 所：桜華会館（桜の間、竹の間）
 参加者：117名 うち第2会場（河川、都市計画）：68名
 ● 都市計画関連から3編
 ①中層共同住宅における道路騒音対策に関する検討
 ……山口政徳（大日コンサルタント株式会社）
 ②環境に配慮した都市づくり～先導的都市環境形成計画～
 ……中根和彦（玉野総合コンサルタント株式会社）
 ③ワークショップ方式による県営広域公園づくりの企画・運営
 ……浅野誠一（中央コンサルタンツ株式会社）



山口さん



中根さん



浅野さん

うち、浅野さんが最優秀賞を受賞しました。

4 平成21年度下半期の主な活動予定

(1) 講習会

日 時：平成21年11月26日（木） 13:20～16:40
 場 所：「名古屋都市センター」 11F 大研修室
 講習会次第：
 「生物多様性とCOP10について」…
 愛知県顧問（環境担当） 林 清比古氏
 「里山の価値と地域づくり」…
 NPO法人犬山里山学研究所理事長
 岐阜大学名誉教授 林 進氏
 主催：都市計画委員会ランドスケープWG

(2) 都市整備WG主催

日 時：平成21年12月9日（水） 15:00～17:00
 場 所：中部支部会議室
 講習会次第：
 「観光振興とまちづくり」…安井 淳氏

事務局だより



◎ 中部支部創立40周年記念行事の開催

中部支部創立40周年記念行事を10月22日（木）メルパーク名古屋において開催しました。当日はご多忙中にもかかわらず多数のご来賓の出席を賜り、また、会員の方にも多数ご出席をいただき、総勢147名で厳粛かつ盛大に挙行いたしました。

第一部では、ジョン・ギヤスライト氏が「世界で一番住みたい街づくり」と題して記念講演を行い、盛大な拍手を頂戴し好評を得ました。第二部では、記念式典を挙行、支部長の式辞・来賓祝辞・会長祝辞・来賓紹介と順調に運び、社会貢献活動で募集した作文・絵の最優秀賞等の表彰式及び永年功労者への表彰式を行い、最後に10年間の中部支部の活動記録であります「この10年を振り返って」を、映像等を交えて説明、報告し無事お開きとなりました。その後、カルテット「リリカ」の演奏を聴きながら和気あいあいと懇談会を開催しました。



◎ 独占禁止法遵守講習会の開催

平成21年度独占禁止法遵守講習会を11月13日（金）メルパーク名古屋において、（社）全国上下水道コンサルタント協会中部支部及び中部地質調査業協会と合同で開催しました。当日はご多忙中にもかかわらず会員90社の方々にご出席をいただき、誠にありがとうございました。講義は、公正取引委員会から専門の講師をお迎えし「独占禁止法の改正要点について」と題して、独占禁止法遵守へ向けての講義をしていただきました。

最近の情勢から有意義な講義であり、総勢186名の皆さんに喜ばれ盛会のうちに無事終了しました。



◎ RCCM資格試験の実施

平成21年度RCCM資格試験が、11月8日(日)名古屋会場(名城大学天白キャンパス)で実施され、今年度は前年度よりも増加し約870名が受験しました。

皆さんもご承知のように、RCCM資格取得者(Registered Civil Engineering Consulting Manager)は、建設コンサルタント業務において必要とされる「管理技術者」・「照査技術者」として、業務に関する技術上の事項を処理し、また、業務成果の照査の任に当たる者であり、極めて重要な地位を占めます。これからは発注機関において「資格取得者の数」等を業者選定の評価に加えるようになってきております。

事務局では、今後も多くの方が受験できるようお手伝いさせていただきます。

◎「品質セミナー“エラー防止のために”」の開催

今年度も「品質セミナー“エラー防止のために”」が、10月15日(木)名古屋ガーデンパレスにおいて開催されました。当日は本部の専門委員会の委員の方が講師となり、技術部門別にエラーの技術的な分析と改善策、効果的なエラー防止の事例等について紹介、説明をされました。地方自治体等の発注機関からも大勢の方が参加され、会員を含め129名の方が参加されました。お忙しい中を多数の方にご参加いただき、誠にありがとうございました。

◎ 防災演習の実施

平成21年度の防災演習が9月1日(火)に実施されました。今年度は四国室戸岬沖を震源地として想定し、本部の「防災演習実施基本方針」に基づく「中部支部防災計画」により、中部支部と本部・現地本部の間及び中部支部と支部会員の間で情報伝達、支援要請への派遣等の訓練を実施しました。特に、今回からは情報伝達システムのほかに、メールによる情報伝達訓練も付加され、二重に確実性を検証しました。

会員各社の皆様におかれましてはご協力をいただき、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。また、中部地方整備局、愛知県、愛知県道路公社及び名古屋市との「災害時の緊急的な災害応急対策支援協定」に基づく防災訓練は、関係機関が実動訓練を主体に実施したため、技術者応援の情報伝達訓練は実施されませんでした。



編集後記



「図夢in中部」も今回が、第24号の発刊となりました。発刊できましたことはお忙しい中ご執筆頂いた皆様方のおかげと心より御礼申し上げます。

さて、今回の特別企画にもありますように、建設コンサルタンツ協会中部支部も今年で40周年という区切りの年となりました。まだまだ建設コンサルタンツ業界にとっては厳しい状況ではありますが、今後も50周年、60周年に向かって大きく羽ばたいて参りたいと思います。

最後に、編集員一同これからもよりよい「図夢in中部」を作成していきたいと思っております。そこで、皆様のご意見、ご感想を是非お聞かせ頂き、紙面に反映していきたいと思えます。今後とも宜しくお願いたします。

(H.I)

編集【対外活動部会編集委員会】

部 会 長 柴田 善光 八千代エンジニアリング株
 編集委員長 岩橋 英雄 セントラルコンサルタント株
 編集副委員長 中村 卓生 株トーニチコンサルタント
 委 員 平田 真規 中央コンサルタンツ株
 委 員 児玉 直人 ジェイアール東海コンサルタンツ株
 委 員 早川 和夫 株帝国建設コンサルタント

委 員 長間 哲 株 近 代 設 計
 委 員 伊藤 博之 株 ニュージェック
 委 員 濱田 常雄 株 新 日
 委 員 瀧 高雄 株 葵エンジニアリング
 委 員 片桐 泰光 中日本建設コンサルタント株

次号の投稿内容および投稿先

編集委員会では次号に掲載する投稿を読者の皆様から募集しています。投稿先・方法などは次のとおりです。

■投稿内容

ジャンル・テーマは自由

※採用の場合は薄謝進呈いたします。

■投稿方法

- ・メール (CCAI-NET)
- ・フロッピーディスク (一太郎・Word)
- ・FAX ・郵送

■投稿先

(社)建設コンサルタンツ協会 中部支部 編集委員会
 名古屋市中区錦3-7-26 (森ビル5F)
 TEL.052-953-6361 FAX.052-953-6362
 URL <http://www.ccainet.org/> E-mail info@ccainet.org

■お問い合わせ先 同 上